

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176500864
法人名	ALSOK介護株式会社
事業所名	グループホーム みんなの家宮原
所在地	埼玉県さいたま市北区宮原町1-530
自己評価作成日	令和5年11月28日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokennsaku.jp/11/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地
訪問調査日	令和5年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

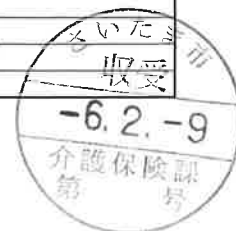
ホームの理念でもある「その人がその人らしく笑顔で生活できるホーム」を念頭に、ご利用者様やご家族様一人ひとりの思いや希望に寄り添ったケアの提供に努めている。新型コロナウイルスの影響で面会や外部(地域との関わり等)との接触を控えておりましたが今年度より以前のような関係作りができるように努めている。レクリエーションとして季節の行事やご利用者様にとっての特別イベントを開催している。また社内の健康増進サービス課によるリモート運動教室で日々運動習慣を身につけている。職員も仕事を楽しめるよう希望休が取りやすい環境になっている。職員間のコミュニケーションも良く情報共有がしっかりとできており、お互い知識や技術の向上に切磋琢磨している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

埼玉新都市交通ニューシャトル「加茂宮」駅より徒歩で3分程の場所にある、鉄筋3階建て3ユニットのグループホームである。周りは静かな環境で隣に保育園があり、園児の元気な声が聞こえていた。理念である「その人がその人らしく笑顔で生活できるホーム」を念頭に置き、日々の支援を行っている。レクリエーションやALSOK介護・健康増進コンテンツによる運動を日々行い、寝たきり予防、脳や脚の機能向上に取り組んでいる。管理者は職員に対し、仕事を楽しみ希望休が取得しやすい環境に配慮している。職員同士が密にコミュニケーションをとり、情報共有しながら知識や技術の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である「その人がその人らしく笑顔で生活できるホーム」をスタッフルームに掲示し、いつでも確認できるようにしている。職員会議等で振り返り、意識の共有を図り、実践につなげている。	職員会議に参加者がより多く出席できるよう、月2回、開催することにして、その中で理念について話し、浸透に取り組み実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域との関わりを持っていたが新型コロナウイルスの影響で交流が途絶えてしまったが、以前のような交流が図れるようにしている。	自治会に入会しているが、地域の行事には参加できていない。近くの公園へ散歩に出掛けた際には地域の方と挨拶を交わしている。	地域の方や自治会と交流の機会を増やし、入居者が地域とつながりながら、暮らし続けるよう、交流に向けた働きかけが求められる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響で交流が途絶えてしまったが、以前のような交流が図れるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度より運営推進会議が再開されホームの状況等報告し話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は奇数月に実施しており、参加者は家族、自治会長、民生委員、市高齢課の職員で市の担当者からは「100歳体操」の提案があった。会議で出された意見や提案はサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常の相談及び事例発生時には、その都度連絡・相談している。運営推進会議には、市の担当者に参加して頂いている。	管理者は主に訪問し、市の担当者とホームの運営状況や空室の報告など行っている。運営推進会議に参加をいただいております、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ運動を促進し、身体拘束廃止委員会を3か月に1回研修を年2回開催し、身体拘束しないケアの実践について話し合っている。	身体拘束適正化検討委員会を3か月毎、研修を年2回開催している。職員は身体拘束の具体的に禁止となる行為を正しく理解し、拘束しないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は不審者侵入等、安全の為に昼夜行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を年3回、研修を年2回開催し、事例検討を行い問題提起する中から高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、そこで得た知識を職場会議等で話し全職員が理解できるように努めている。また、パンフレットもホームに置き直ぐ活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問を生じやすい内容については、特に時間を掛け説明し、入居後も相談しやすいよう声掛けや場の提供をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情等の窓口を明確にしている。また、面会時など話しやすい雰囲気作りを心掛けている。出された意見等は会議で話し合い、運営に反映させている。	面会時には話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。運営に関する家族の意見や要望を外部者へ表せる機会を設けている。出された意見は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個人面談を行い個別の相談に応じる機会を設けている。また日常よりコミュニケーションに心掛け話しやすい雰囲気作りに努めている。	管理者は職員会議や申し送り時などで職員の意見や提案などを聞いている。みんなで話し合い、運営に反映させている。また、年2回、個人面談を行い個別に相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議・フロア会議を定期的に行い、意見交換を行うことにより、やりがいや向上心が持てる環境作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修に参加する機会を設けている。日々の勤務で一人ひとりのケアの力量に合わせスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・会議の参加を通し交流を持ち情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学・問い合わせや入居時にじっくり話を聞き、何に困っているか理解し解決策を共に考えている。入居前にアセスメントを参考にカンファレンスを行い職員間の情報共有に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から入居担当者と連携を持ちご家族様の気持の理解に努めている。入居後の様子をお伝えする連絡を密にし、意見を出しやすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前アセスメントや暫定プランに反映させ職員への周知を図り安全にお迎えできる体制作りをしている。必要に応じて特記事項の記入をし、細かい情報収集に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者様を人生の先輩として人生経験からの助言等を頂き職員のエネルギーとなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様を共に支え合うパートナーとして、絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響で馴染みの人や場所との関係が途切れていたが復活できるように努めている。	ホームでは馴染みの人や場との関係継続の支援を心がけており、知人などの訪問時にはゆっくり面会できるよう配慮している。携帯電話で家族や友人とメールでやり取りをしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の交流が難しい方が多いが、お互い心地よい関係ができるように席順等を考慮している。また他フロアとの関係作りも大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後でもご利用者様・ご家族様との関係は良好に保たれている。場合によっては、電話等でご家族様といつでも相談し合える環境作りができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中一人ひとりの言葉や表情等から、思いや意向の把握に努めている。またご家族様からご協力を頂きながら、どのような暮らし方が最良なのかを日々検討している。	職員は一人ひとりの表情や言葉などから思いや意向の把握に努めており、家族からも話を聞いている。職員会議やサービス会議の中で皆で意見を出し合い、どのような暮らし方が最良なのかを日々検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様より事前にお話を伺いアセスメントを職員間で共有し日々のケアに活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様一人ひとりの状態に応じた対応を心掛けている。また現状の状況を職員間で共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時は必ずご本人様とご家族様にご意向を伺い会議等で話し合い、意見交換をした上で計画を作成している。状況変化の都度話し合い現状に即した計画に変更している。	ケアマネジャーはフロア会議の中でサービス会議を開催し、職員の意見を聞きながら本人、家族の希望を取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は会議記録に記入しその記録をもとに会議時介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様のその時々状況に応じて柔軟な取り組みができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で外部との交流が途絶えていましたが、また以前のような交流ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望を大切にし入居後もかかりつけ医の受診や通院も可能となっている。また医療との連携を図り適切な医療が受けられるように支援している。	協力医療機関と歯科の往診が月2回ある。これまでのかかりつけ医に家族と通院している方もいる。ホームでは本人、家族の希望を大切にし、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の関わりの中でとらえた情報を毎週医療連携看護師との連絡帳に記入して適切な看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院した際は病院関係者と密に連絡を取りあっている。普段より病院関係者との関係は作られている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針を定めており、入居契約時に説明している。看取りを希望される場合も事業所でできる事を説明し関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」について説明している。重度化した場合は医師より家族に十分な説明と同意を確認したうえでチームでターミナルまでの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用方法、急変時・事故発生時対応ができるよう訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(1回は夜間を想定)消防訓練を行っている。災害に備え備蓄ができている。	年2回の防災訓練を実施している。夜間や自然災害を想定し、避難動線などについて話し合いを行っている。水やレトルト食品などの備蓄を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのの人格を尊重し、周りに配慮した言葉掛けや対応に努めている。また本社より個人情報の取扱いに関する通達が届き振り返る機会がある。	職員は日頃より、一人ひとりの人格の尊重と誇りやプライバシーを損ねない言葉かけへの対応に努めている。また、本社より個人情報の取り扱いに関する通達があり、職員に伝え振り返っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様に意見を伺ったり、日常の会話から思いを汲みケアに結びつけている。ご自分で決定できるよう声掛けに留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの一日の流れは決まっているが、ご利用者様一人ひとりのペースを大切にしている。その日の希望にもできるだけ応えられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望により訪問理美容ができるようにしている。またレクリエーション開催時はお化粧・マニキュアなどおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の料理やおやつが楽しめるようにレクリエーションを工夫している。ご家族様の意向もあり、片付けや食拭き等の手伝いをして頂いている。	行事や誕生日会では、好みのものをリクエストしていただき、職員が手づくりするなど、食事を楽しんでいる。入居者の力を活かし片付けやテーブル拭き、食器拭き等、職員と一緒に頂いていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事チェック表を活用し摂取状況の確認をしている。個人に合わせた食事量や形態別の準備をしており状況により代替品や嗜好品の準備もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医・衛生士による指導の下、毎食後一人ひとりの口腔状態に応じたケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の習慣や排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた対応策を検討している。自尊心に配慮しさり気なく声掛け誘導しトイレでの排泄を目標としその方の身体機能に応じた支援を行っている。	個々の排泄パターンを掴み、トイレ誘導を行い排泄の自立に向けた支援をしている。立位が保てる方は夜間でもトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状態を把握し、医療と連携を図り便秘の予防に努めている。乳製品など個別に用意し、日常生活の中で体操や散歩などで自然排便ができるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせてゆっくり入浴して頂けるよう支援している。季節に応じてゆず湯等の提供をしている。	週2回、午後に入浴を行っており、個々の要望に沿った対応をしている。希望で午前中に支援する場合もある。拒否のある方には柔軟に対応し、日を変えたり、時間をずらしたりしている。また、季節のゆず湯などを提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを理解しその方に応じた対応を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による薬情報説明を確認し、指導内容を職員間で申し送りにて情報の共有に努めている。内容が変更になった時は症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	馴染みのレクリエーションを取り入れたり、得意分野を役割として担って頂く事により気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出ができなくなりましたが今後は以前のように出掛けられるように支援していく。	天気の良い日には散歩に出掛けしている。家族と食事に出掛ける方もいる。コロナで外出の制限をしていたが、従来通りに外出できるよう、検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出ができませんが、今後は以前のようにお金をお渡しして使えるように支援します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様自らが電話したり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は季節を感じて頂けるようなお花や作品をかざっている。ご利用者様が混乱をまねかないようにトイレの場所やご自身のお部屋が分かりやすいように工夫している。	共用部にテーブルや椅子を配置し、テレビや雑誌などを見てくつろいだり、カウンター越しのキッチンの食事の準備等を見ながら和やかに過ごしている。トイレや居室がわかりやすいよう、工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自身で居場所の選択ができるよう椅子やソファを配置している。お一人で過ごしたり談笑できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットや整理ダンス等は備え付けているが、今までの生活スタイルで暮らして頂けるよう使い慣れた物や好みの物を持ち込んで頂き居心地良く過ごせるように工夫している。	入居時に居心地よく、安心して過ごしていただくため、馴染みの物や思い出の物を持ち込んでいただいている。毎朝、職員が居室の清掃を行っている。ご自身で出来る方にはやっていただき、職員が後の確認をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は段差をなくしたり手すりを設置したり等安全面に配慮されていて自立した生活が送れるように工夫している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームみんなの家・宮原

作成日: 令和 6年 1月 21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	地域の方々との交流の機会が少ない	入居者様が地域とつながり、暮らし続けるよう交流に向けた働きかけを行う	地域行事等の参加	10ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

